

蓮如物語り

同行とともに

勝林寺

蓮如上人が、父存如上人のあとを継いで正式に本願寺第八代のご門主になられたのは、すでに四十三歳のときであります。しかしそれからの蓮如さまは、実際に大胆に祖師親鸞聖人のおしえの復興に突き進んでいかれたのです。

上下のへだてを一切取り除き、「だれもが同座でお念佛を聞き語り合う」「寄り合ひ」・「講」・「道場」などという法座組織をひろげていきました。また、南無阿弥陀仏のお名号や、「ご文書」とよばれるお手紙を、積極的にひらくお同行の間に出して、いわゆる文章伝道をくりひろげていきました。あるいはまた、どんなひとと一緒に声をそろえて唱えることのできる『正信偈和讃』を制定して、おみのりの伝播をはかれました。

なかでも、とくに文字も読めない、忙しい暮らしの人、ことに女性（一文不知の尼入道）に対して、すつきりと理解できるようなことばで、お念佛のおいわれを説く努力をしてくださいました。

蓮如さまのこの努力により、浄土真宗は、またたくうちに近畿一帯の、とくに当時の新興勢力であった近江商人などのあいだに広まつていきました。

ところが、浄土真宗を、まだ自分の支

で正式に本願寺第八代のご門主になられたのは、すでに四十三歳のときであります。しかしそれからの蓮如さまは、実際に大胆に祖師親鸞聖人のおしえの復興に突き進んでいかれたのです。

武力腕力の争いを極力さけたい蓮如上人は、京都周辺に難をのがれましたが、ついに文明三年（一四七一年）、京都・近江をたって、今度は北陸地方の教化にむかわれ、吉崎というところを本拠に、ますます農民庶民、女性相手にご活躍くださるのです。

このように蓮如さまは、宗祖親鸞様のながれのなかで、終始一貫農民庶民女性と共にどこにお念佛に生きられたかたであります。その蓮如さまの五百回の遠忌法要が、平成十年に勤まります。こぞってお参り致しましょう。

九月一日 出合 莢井 儀儀  
九月十三日 坪口 生田 善一 様  
九月二十六日 東里 中嶋 孝子 様  
森林戸 精穀 様

## 初参式

## 十月のこよみ

一日	別修報恩講実行委員会
三日	但馬地区総代研修会
四日	出石組念佛奉仕団
五日	出石組念佛奉仕団
六日	生田善一様忌明

七日	玉日会報因講
一二日	多田保様一周忌法要
一三日	長專寺報恩講
一四日	長專寺報恩講
一五日	永井五生氏宅法事
一六日	田村春夫氏宅一周忌法要
一七日	十六夜会定例法座
一八日	神戸別院・兵庫教区教化センター
一九日	元成記念法要
二〇日	西宗寺報恩講

二一 日	別修報恩講準備会
二二 日	別修（敬老）報恩講
二三 日	西宗寺報恩講
二四 日	中島彰則氏宅遷仏式
二五 日	谷垣瑛子氏宅遷仏式
二六 日	成田馨氏宅法事
二七 日	中藤清水家法事
二八 日	宮嶋達也氏宅法事
二九 日	善立寺報恩講

【如来さまを古い印度のことばでは、タッターラタといいます。真如より来て真如に行く：わたしのところへやってきて、わたしを真如へつれていく：そういうふたきが如来さまというのです】（み：活用語連用形について、繰り返し繰り返しの意を添える接尾語）「くるみいくみ」はいさか文法的には無理がある

小谷にあるみほとけの家「道場（堂場）」に  
如來　如去　くりかえしくりかえし去  
いつでもどこでも　くまなくはたらい  
てくださる

弥陀如來のご本願のおはたらきは  
なんと貴いことであろうか  
(宮嶋さんの家は今も口小谷の堂場で)



二五日  
二六日  
二七日  
二八日  
二九日

中島彰則氏宅遷仏式  
谷垣瑛子氏宅遷仏式  
中藤清水家法事  
永井かめの氏宅法事  
龍野淨蓮寺法事

## 「まさか」という坂道

こども時分から、京都のまちで染め物商売をたたきこまれ、ようやく独り立ちして会社つくつてそこそこ食べていけるようになりました。すでに五十歳ながばでございました。

一番このことを喜んでくれた吉野の山奥の山里住まいの父親が、それから三・四年もしないうちに他界してしまいました。

そのおやじの遺言に

「人生にはいろいろな坂道がある。一つは上り坂。二つめは下り坂。そして三つめは『まさか』という坂や。」

「京都におるんやさかい、本願寺さんと大谷さんへ、月に一度はおまいりして、『まさか』のときにうろたえんようによ、ようよう聞かせてもらつておくれ。『まさか』という坂は、いつ来るやもしれん坂道やさかいな」

それからこっち、折角京都に住まわせてもらつてゐるしあわせに、月に二度や三度はお参りさせていただくようになります。

お参りさせていたくうちに、あのおやじのことばが、わたし、身でもつてわかせていただいています。

「上り坂」のときもありましたが、そのあとすぐに「下り坂」がやってまいります。

その「上がり坂」「下り坂」を、ヤツサモツサやつてゐる最中に、突然「まさか」予想もしなかつたことがしゅつたりして、頭も心も真っ白。自分を完全に失つてしまふことに何度も出会いました。

おかげでわたしはこの本願に出会いました。

まさかまさかの連続で、毎日あくせくあがきまわっている救いようもないこのわたくしが、「まさか」この本願のお目当てであったとは。

おやじのおしえてくれた「まさか」という坂。もつたない坂といただいております。

お参りください  
お待ちしております

別修報恩講

山に映える紅葉、野にすぐ虫の声に秋の深まりを感じるこのごろです。  
お変わりございませんか。

お伺い申上げます。

『別修(敬老)報恩講』は、昭和五十四年に始まりました。

『仏壯仏婦でおつとめしていた、毎月の「みのりを聞く会」に、お参りできな遠方のお年寄りとも、せめて年に一度でも、共々に、おみのりに会わせていただきたるもの』

という願いから始められました。

だから今年で十七回目ということになります。

今年も、仏壯仏婦会員こそつてお待ち致しております。  
どうぞお誘い合わせ、お参りご参加くださいませ。

【一部】  
五時 開会

- ① 仏社會長開会の挨拶
  - ② おつとめ「正信偈(草譜)」
  - ③ ご法話
  - ④ ビデオ上映
  - ⑤ 仏婦會長歓迎の挨拶
  - ⑥ おとぎ
  - ⑦ 門徒總代いさつ
  - ⑧ 懇親演芸会
- (閉会 九時)

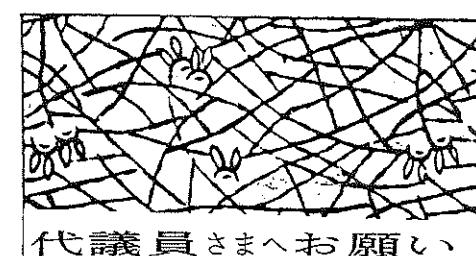
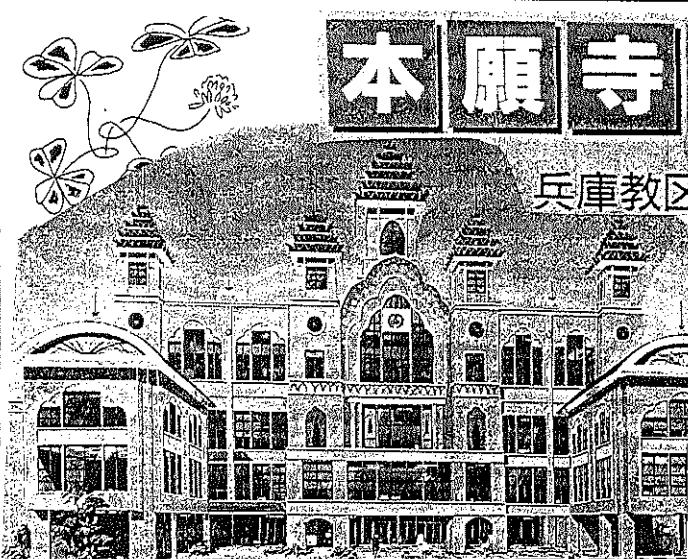
## 本願寺神戸別院

### 兵庫教区教化センター

10月18日～20日三日間、ご門主ご親修の『完成記念法要』がつとまります。勝林寺からは住職法要出勤、7名の代表参拝がおまいります。(18日)

これからは、研修施設の整ったこのセンターで、仏壯仏婦など各種の研修が活発におこなわれます。

みなさまのご懇意で完成したこの別院。わたしたちも機会あるごとにお参りしたいものだと思います。



- 代議員さまへお原稿い
- ① 後日お届けの案内状で70歳以上の方にご案内ください。
  - ② 仏壯仏婦会員の参加を極力お勧めください。
  - ③ バスご利用の人数をお知らせください。(バス運行の都合がありますから)

栗尾	四・〇〇	正法寺	四・〇〇
坪口	五・〇五	小谷	四・一〇
上小田	五・〇〇	和屋	四・五〇
坪口	五・〇五	市場	四・二〇

送迎バスを差し向けてます。ご利用ください。

勝林寺仏教青年会会長  
中自局 武志  
出石上加代子

【会費】 仏社會員 一、五百円  
仏婦會員 一、三百円  
招待者 無料  
九月三十日

別修(敬老)  
報恩講